

耐雨性に優れたカンキツ黒点病の防除対策

果樹試験場 主査研究員 武田 知明

【要約】

ウンシュウミカンのカンキツ黒点病に対して、マンゼブ剤(以下、Mn剤)400倍液へのパラフィン系展着剤(以下、P剤、1,500倍希釈)加用散布は慣行のMn剤600倍液散布に比べて耐雨性が優れ、多雨条件下においても高い防除効果を示す。

【背景・ねらい】

カンキツ黒点病はウンシュウミカンの重要病害である。慣行防除剤であるMn剤の600倍液は散布後の累積降雨量が200~250mmに達するまで効果が持続するが、近年、累積降雨量250mm以上の集中豪雨が増加しており、より耐雨性が優れた防除手法が求められている。そこで、Mn剤の使用基準の上限濃度である400倍液に薬剤の耐雨性を向上させる作用があるP剤(1,500倍希釈)を加用して散布する手法について耐雨性を検討した。

【成果の内容・特徴】

- 1) 薬剤散布後、防除価 95 以上の高い防除効果が認められたのは、Mn 剤 (400 倍) +P 剤 (1,500 倍) 区は累積降雨量 597mm までで、同 266mm までであった慣行・Mn 剤 (600 倍) 区に比べて耐雨性が優れた (図 1)。
- 2) 防除試験の結果、Mn 剤 (400 倍) +P 剤 (1,500 倍) 区は、3 回目の散布日 (7/19) から 4 回目の散布日 (8/23) の間に累積降雨量 662mm の集中豪雨があったにも関わらず防除価 91.8 と高い防除効果を示し、慣行・Mn 剤 (600 倍) 区 (防除価 79.5) に比べて優れた (表 1)。

※Mn 剤の 400 倍液はウンシュウミカン以外のかんきつでは使用不可

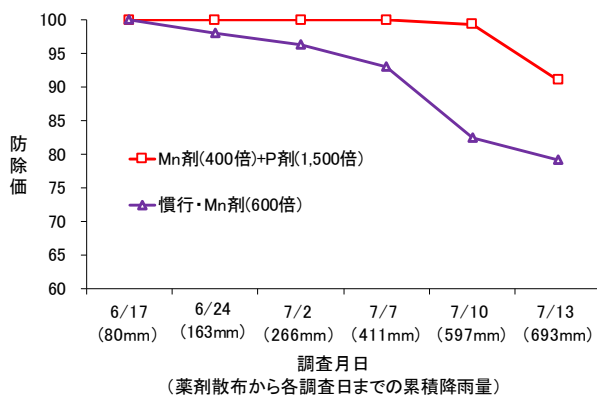


図1 Mn剤(400倍)+P剤(1,500倍)の防除価の推移 (2020年)

6月9日に「興津早生」(25年生樹)に薬剤を散布した。図に示した日に1樹あたり50果の発病を程度別に調査して発病度を算出し、防除価を次式から求めた。

防除価 = 100 - (薬剤散布区の発病度 / 無散布区の発病度) × 100

表1 Mn剤(400倍)+P剤(1,500倍)の防除効果(2021年)

試験区	発病果率 (%)	発病度	防除価
Mn剤(400倍)+P剤(1,500倍)	49.0	7.0	91.8
慣行・Mn剤(600倍)	73.5	17.5	79.5
無処理	100.0	85.2	

供試樹:「興津早生」(26年生樹)
 調査方法: 10月12日に図1と同様の方法で調査を行った。
 薬剤散布日、調査日、試験期間中の降雨状況は以下の通り

降雨量(mm)	薬剤散布日				調査日
	5/23	6/20	7/19	8/23	10/12
	165	209	662	208	